キャラクター名: 神船 姫子(みふね ひめこ)

プレイヤー名:

シンドローム	バロール ノイマン	ワークス	高校生	カヴァー	高校生
オプショナル		年齢	16	性別	女
覚醒	感染	衝動	吸血	初期侵食率	31 %
出自	権力者の血統	経験	平凡	邂逅	借り

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	0	1	0			1
感覚	1	0	0			1
精神	5	0	0			5
社会	2	0	0			2

HP	27
行動値	7
(非装備時)	7
戦闘移動	12
全力移動	24

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			ＲＣ	2		交渉		
回避	1		知覚	1		意志			調達		
運転：			芸術：			知識：			情報：噂話	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
《有罪》(100↓)		5r+2				クリティカル値8
①+③		0				命中時対象が次に受けるダメージ+6D10
《有罪》(100↑)		5r+2				クリティカル値7
侵：5、侵蝕率D未計算		0				命中時対象が次に受けるダメージ+7D10

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品	
コネ：手配師	
使用人	

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
両親	P 尊敬	N 嫌気		
クラスメイト	P 友情	N 不安		
ヨハン・C・コードウェル	P 好奇心	N 脅威		
柊木 琴音	P 信頼	N 嫌気		
浅田 写六	P 好意	N 恐怖		
美鈴 新	P 純愛	N 不安		
	P	N		

最大財産P: 4	残り財産P： 0

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：	コスト分のHPで復活							
時間凍結	★	5	イニシアチブ	至近	自身	自動	80↑	
効果：	シナ1回追加行動。MP後HP20消費							
時の棺	★	10	オート	視界	単体	自動	100↑	
効果：	シナ1回対象の判定を失敗させる							
コンセントレイト：バロール	2	2	メジャー	-	-	ｼﾝﾄﾞﾛｰﾑ	-	
効果：	クリティカル値-LV							
因果歪曲	1	3	メジャー	-	範囲(選択)	ｼﾝﾄﾞﾛｰﾑ	ｼﾅLV回	
効果：	対象を範囲(選択)に、自ｴﾝ不可							
死神の瞳	5	3	メジャー	視界	単体	RC	-	
効果：	対象の次に受けるﾀﾞﾒ+[LV+1]D、HPﾀﾞﾒを与えられない							
停滞空間	3	2	メジャー	視界	単体	ｼﾝﾄﾞﾛｰﾑ	ｼﾅLV回	
効果：	対象の【行動値】を0に、HPﾀﾞﾒを与えられない							
魔神の心臓	3	4	メジャー	-	-	ｼﾝﾄﾞﾛｰﾑ	100↑	
効果：	R間、対象の判定ダイス-[LV*3]							
ラストアクション	★	5	オート	至近	自身	自動	100↑	
効果：	シナ1回戦闘不能時MPを行う							
帝王の時間	★	-	メジャー	至近	自身	自動		
効果：	ゆっくり流れる時間の中で過ごす							
ディメンジョンゲート	★	3	メジャー	至近	効果	自動		
効果：	既知の場所へのゲートを作る							
偏差把握	★	-	メジャー	視界	ｼｰﾝ(選択)	自動		
効果：	周囲の全てを知覚する							
写真記憶	★	-	メジャー	至近	自身	自動		
効果：	目にしたものを全て記憶する							
ドクタードリトル	★	-	常時	至近	自身	自動		
効果：	あらゆる言語を使いこなす							

甘い菓子を専門的に扱っている大企業、「mifune」の社長令嬢。
その影響を受けてか、常日頃から飴を舐めている程の甘い菓子好きである。
そんな彼女は生まれた時から深窓の令嬢として育てられ、まさしく将来有望……その筈だった。
ある日通学している学校の屋上から転落し、そしてそのまま姿を消してしまったのだ。
程なくして彼女は姿を現したが、それから毎日のように姿を消してはいつの間にか戻っている日々が続いているという。
不可解なこの現象。彼女が姿を消している間、その姿を見た者は口をそろえてこう言う。

『学校の屋上で星を観ていた』

――――――それが嘘か真か、知る者は僅かである。

《両親》(P)尊敬/(N)嫌気
何も無い状態から今の企業を創り上げた彼らは尊敬の域に値する。
それに、彼らは私の教育にも熱心に取り組んでいる。それは問題ない、のだが。
些か厳しすぎではないだろうか。毎日のあらゆる時間を束縛され、自由もままならない。
それが嫌で私はその束縛から抜けだし、果てのない空を観ているのだから。

《クラスメイト》(P)友情/(N)不安
私は彼らに嘘偽りのない友情を感じている。
だが、彼らは果たして私に同じ感情を抱いているのだろうか。
厄介者と思われていないだろうか。邪魔者と思われていないだろうか。
私はそれだけが不安で不安でどうしようもないのだ。